

市社協通信

発行・編集／社会福祉法人 広島市社会福祉協議会
〒730-0052 広島市中区千田町一丁目9-43 (広島市社会福祉センター内)
TEL 082-243-0051 FAX 082-243-0032
URL : <http://shakyo-hiroshima.jp/>
E-Mail : chiiki@shakyohiroshima-city.or.jp

8月20日 広島豪雨土砂災害 たくさんの皆様の支援に感謝いたします!!

本市では、8月20日の未明に安佐南区及び安佐北区において多数の土砂災害が発生し、死者74名、負傷者44名、家屋等損壊4,749件、被災世帯は5,000世帯にもおよぶという甚大な被害となりました。被害に遭われた皆さまには、心よりお見舞い申し上げます。

広島市社協及び被害の大きかった安佐南区及び安佐北区社協では、被害を受けた皆様が一日も早く日常の生活を取り戻すことができるよう、8月20日に「広島市災害ボランティア本部」を、8月22日には安佐南区と安佐北区にそれぞれ「災害ボランティアセンター」を開設いたしました。

これら本部及びセンターの設置は、「広島市災害ボランティア活動連絡調整会議」※の決定に基づくものであり、その後の運営に、数多くの皆様の人的、物的、経済的支援をいただいたことに、深く感謝申し上げます。

まだ復興中途ではありますが、本会広報紙「市社協通信」の発行に際し、まずお礼を申し上げるとともに、以下のとおりご報告をさせていただきます。

※ 広島市では災害時に連携して災害ボランティア活動を支援するために、市、市社協、NPO センターなど22団体で構成する「広島市災害ボランティア活動連絡調整会議」を平成9年に設置している。大規模災害発生時には、会議を開催し、災害ボランティア本部、災害ボランティアセンターの開設を決定し、社協が中心となり、構成団体スタッフやボランティアなどで運営する。

8月20日 広島豪雨災害について（被災状況・支援状況等）

1 被災状況（H26.12.26 現在）

(1) 人的被害

総合計	143名
死者	74名（安佐南：68名、安佐北：6名）
負傷者	69名（重症者47名・軽傷者22名）※

※安佐南：54名（重傷38名・軽傷16名） 安佐北：15名（重傷9名・軽傷6名）

(2) 物的被害

全壊	179件（西：1件、安佐南：145件、安佐北：33件）
半壊	217件（安佐南：122件、安佐北：95件）
一部破損	189件（中：1件、西：7件、安佐南：106件、安佐北：73件、安芸：1件、佐伯：1件）
床上浸水	1,084件（西：2件、安佐南：796件、安佐北：286件）
床下浸水	3,080件（西：18件、安佐南：2,278件、安佐北：784件）
山が崩れ	380カ所（西：12件、安佐南：119件、安佐北：246件、佐伯：3件）



〈被害状況〉

2 ニーズ件数（H26.12.31 現在）

総合計1,787件（安佐南区：1,087件、安佐北区：700件）

3 ボランティア活動者数（H26.12.31 現在） ※ 災害ボランティア本部把握分

総合計 43,582人（安佐南区 29,394人 安佐北区14,188人）

各記事につけられた以下のマークは、その事業が本会「地域福祉推進第7次5か年計画」のどの基本目標に属するかを表しています。



※この度は、災害の影響により、通常10月での発行時期を大幅に遅らせての発行としました。

4 【人的支援】 災害ボランティアセンター運営支援者派遣

連日、千人を超えるボランティアの対応など、これまでにない規模の災害ボランティアセンターの運営において、各団体の皆様、全社協をはじめ、他県市町社協の運営支援経験が豊富な職員の応援により円滑に行えたものと、改めて感謝申し上げます。

(1) 広島市災害ボランティア活動連絡調整会議の構成メンバー 延べ839人

※構成団体のうち15団体から運営スタッフとして延べ839人を派遣いただいたほか、資機材(スコップ・土嚢袋など)や事務用品の提供など、それぞれの団体のネットワークを活かしたご支援をいただきました。

(2) 全社協、県社協、県内市町社協、中国・四国・九州ブロック社協からの派遣職員

県内外社協職員派遣	延べ852人
①県内	482人
(県社協192人、市町社協290人)	
②中国ブロック県・政令指定都市社協	278人
(岡山57人、鳥取104人、島根44人、山口54人、岡山市19人)	
③全国ブロック社協	92人
(四国40人、九州52人)	

※派遣調整にあたり、広島県社会福祉協議会には多大なるご尽力をいただきました。



〈災害ボラセン運営の様子〉

(3) 災害ボランティア活動支援プロジェクト会議からの派遣者 延べ234人

※これまでの被災地での活動経験を生かして、災害ボランティアセンター立ち上げから復興連携センターへの転換まで、さまざまな助言・提案をいただきました。

(4) 学生のみなさま

※災害ボランティアセンターの運営にも数多くの学生に参画していただきました。学生の元気いっぱいの笑顔は、被災された方や地元住民への大きな希望となりました。また、柔軟な発想による企画を災害ボランティアセンターの活動にも反映させていただきました。

(5) 地区社協、ボランティアグループ等

※継続的にスタッフを派遣してくださいました。温かい声かけや気遣いのおかげで、ボランティアさんに気持ちよく活動をしていただけました。また、避難所でボランティアコーディネートが行われた地区もあります。

(6) NPO・NGOのみなさま

※被災後、たくさんのNPO・NGO団体が被災地に入り活動し、今も被災地に残って活動していただいている団体もあります。被災者の方へ炊き出しを行なう団体もあり、温かい食事は被災された方の体だけでなく、心まで温かくしてくださったのではないかと思います。

5 【物的支援】

市町社協、社会福祉施設からの車両貸与をはじめ、全国各地の団体・企業などからボランティアセンター運営に係る資機材の貸与・提供を受けました。

6 【経済的支援】 見舞金・支援金 (H26.12.31 現在)

共同募金、全社協からの支援金に加え、中国ブロック県社協をはじめ政令指定都市社協、全国の市町社協から見舞金、支援金をいただきました。また、災害ボランティア活動に係る支援金を募ったところ、県内外の多くの個人・団体・企業からご協力をいただきました。

合計	16,016,961円
見舞金	2,988,800円
支援金	13,028,161円

寄付者ご芳名は、掲載の了解得次第、本会ホームページでご紹介していく予定です。

7 義援金 (H26.11.30 現在)

広島県共同募金会扱い分	333,505,663円
(内、広島市共同募金会扱い)	7,418,597円)

災害ボランティアセンターから復興連携センターへ

安佐南区と安佐北区の災害ボランティアセンターでは、県内外から多くのボランティアによる、被災世帯の居住空間を確保するための土砂だしや家屋内の清掃活動等の連絡調整や支援を行いました。

多くのボランティアの方々により、大人数を必要とする土砂だし等の作業系の要望は一定の見通しがつき、家屋内の清掃や自立生活の再建へ向けた個別対応が求められているとの判断に至り、10月1日からは、「広島市災害ボランティア本部」を「広島市復興連携本部」、安佐南区及び安佐北区の「災害ボランティアセンター」を「復興連携センター」へと転換し、土砂だし等のボランティア活動の調整は土日限定で継続しつつ、福祉関係の方々のご協力をいただきながら、住民の皆様が被災生活から日常生活に移行するための生活支援と地域の復興へ向けた取り組みを中心に行ってきました。

さらに、土砂だし等の作業の要望は収束し、少人数で対応する清掃等の細かい作業の要望が中心になってきたことから、10月以降土日限定で行ってきた送り出し型のボランティア活動の調整については、11月2日をもって終了しました。

11月4日からは、ボランティアの受付方法を事前登録制とし、平日の活動を中心に、被災者からの要望に応じてボランティア活動調整を行っています。



〈すまいるカフェの様子〉

広島市復興連携本部

『広島市復興連携本部』で検索！！

HP <http://hiroshimavc.jp/>

facebook <http://www.facebook.com/hiroshima.vc>

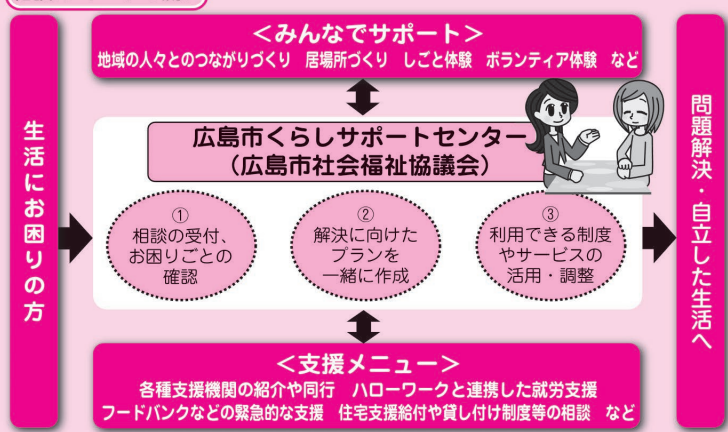
広島市くらしサポートセンターを開設しています。

平成 26 年 9 月 1 日に、「広島市くらしサポートセンター」を開設しました。(広島市からの受託事業) 当センターは様々な理由で生活(くらし)に困っている方の相談を受け、寄り添い、共に考え、自立した生活への伴走をしていきます。

『長い間仕事から離れていて、なかなか仕事が見つからない』、『家賃が払えなくて、アパートから退去を求められそう』、『ひきこもりなど、気になる家族がいる』などの困りごとを抱えている方、遠慮なく当センターへご相談をお寄せください。

- 1 対象者： 広島市内に住所または居所のある方で、経済的な面で生活にお困りの方
(生活保護受給中の方はのぞく)。
家族や知人、近隣にお住まいの方、各種支援機関からの相談もお待ちしております。
- 2 相談日時： 平日 8 時 30 分～17 時 15 分
(土日、祝日、12/29～1/3 をのぞく)
- 3 相談方法： 面談、電話、FAX、Eメールなど。まずはご連絡ください。
※お近くの区社会福祉協議会へご連絡いただければ、お取り次ぎします。
- 4 相談員： 社会福祉士資格を有する専任の相談員が対応します。

相談、サポートの流れ



私たちが相談に応じます。

お問い合わせ

TEL : (082) 546-9820 / FAX : (082) 543-6326

Eメール : kurasapo@shakyohiroshima-city.or.jp

ホームページ : <http://shakyo-hiroshima.jp/>

9月からの相談対応状況

9月:108件、10月:54件、11月:52件、12月:30件の新規相談をうけ、12月末現在、83件のご相談に引き続き対応しています。引き続き対応とは、初回相談及びそれ以降の面談等の結果、センターとして引き続き面談を重ねたり、ハローワーク等への就労支援をはじめとした支援計画を策定し、継続支援を行っていることを意味します。

社会福祉法人

施設による地域貢献の取り組み！



【公益社団法人広島市老人福祉施設連盟】

広島市老人福祉施設連盟では、8月20日の広島土砂災害の発生を受け、災害復旧ボランティアチームを派遣しました。発生後の8月25日～9月30日の間でのべ847名の施設職員が復旧活動を行いました。安佐北区では、ボランティアセンターの調整のもとで活動を行い、安佐南区では緑井7丁目の八敷福祉会さんのご紹介により、継続した活動を行うことができました。災害の傷跡は大きく本当の意味での復興にはまだ時間を要する状況ですが、一日でも早い被災地の復興・復旧を願って、今後も様々な形で支援活動を行っていききたいと思えます。

公益社団法人
広島市老人福祉施設連盟
会長 藤井 紀子



【一般社団法人 広島市私立保育園協会】

8/20に広島市を豪雨災害が襲い、74名もの方々がお亡くなりになりました。謹んで哀悼の意を表するとともに、被災した皆様には心よりお見舞い申し上げます。

さて、今回の災害に際し当協会では、翌日より被災地に入り、各避難所を訪問し、どんな支援ができるかを調査してまいりました。避難所に多くの子どもが溢れている様子を目の当たりにし、現地での「臨時保育所」の開設に関係機関と協議しましたが、場所が確保できないなどの理由により断念せざるを得ませんでした。

そこで広島市と協議をし、「被災者のお子さんを対象に無料の一時預かり保育事業」を実施することとしました。避難先での利用ニーズも想定し、全市域の私立認可保育園に受入れの協力を呼び掛けましたところ、快くご賛同いただき、8/25～9月末までの実施期間中に延べ294人の利用者を受け入れました。

また、義援金を募ったところ、会員園の保護者や職員の皆様をはじめ全国の保育関係の皆様より、総額600万円もの善意が寄せられました。義援金は、被災4か園、施設が全壊し再建に向け活動を再開された八木園（障がい者福祉サービス事業所）、また、多くの被災者の生活支援にお役立ていただくという趣旨から広島市へも配分をさせていただきました。

被災地で額に汗しながら働く多くの若者の姿を見て、全国からお寄せいただいた多くの善意に触れ、日本の「助け合い魂」「絆」をあらためて感じた次第です。一日も早い復興を念じています。

一般社団法人広島市私立保育園協会

理事長 松尾 竜

【社会福祉法人順源会「八幡学園夏休み学習会」】

佐伯区にある社会福祉法人順源会「八幡学園」（児童養護施設）では、地域との交流や施設に対する理解を促進するために、夏休み期間中、施設を開放し、「夏休み学習会」を開催しています。保護者が仕事で家に居なかったり、病気により子どもの面倒をみることができない家庭や、留守家庭子ども会を利用できない児童を対象に、学習指導や学童保育を行っています。

この「夏休み学習会」は、小学1～6年生までの学童を対象とし、毎年50名くらいの子どもたちが参加しています。佐伯区退職校長会の会員の方々が、施設内の地域交流ホーム等を使用して、ボランティアで夏休みの宿題、工作、昼食、プール遊びなどを行います。

参加している子どもたちは、紙飛行機、土鈴づくりなどの工作をしたり、年齢の異なる子どもたちとの交流もあり、とても楽しそうです。学校とは一味違った「開放感」も子どもたちには魅力のようです。

また、保護者からは、安心して仕事や家事に専念できるとして、大変喜ばれています。

平成16年から始まったこの取り組みですが、年々こうした活動を積み重ねることにより、八幡学園と地域との交流、そして八幡学園に対する地域の理解が深まってきているようです。

